

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

主な施策展開 ① 「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をはぐくむ教育の充実

A 成果 見聞	B 進捗状況
<p>子どもが、自ら考え、判断し、様々な問題に積極的に対応することができるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学ぶ意欲などを身に付けさせ、「生きる力」を育成する必要がある。</p>	<p><b>○ひろしま型カリキュラムの推進</b> 言語運用能力・数理運用能力を身に付け、思考力、判断力、表現力を向上させる本市独自の教育課程を全小・中学校に導入し、推進している。</p> <p><b>○少人数教育の推進</b> 小学校1年生から中学校1年生に、順次35人以下の学級を導入し、義務教育9年間を見通した少人数教育による個に応じたきめ細かな指導を進めている。</p> <p>【「少人数教育推進のための段階的プラン（第Ⅰ期）」】 20年度：小学校1年生～3年生及び中学校1年生に導入 21年度：小学校4年生に拡大 22年度：小学校5年生に拡大 23年度：小学校6年生に拡大〔段階的プラン（第Ⅰ期）完成〕</p> <p>【中学校1年生】 生徒数が30人を超える学級の場合に、県費措置に加え、市費で非常勤講師を配置し、国語・数学・英語において1学級を2つのグループに分けるか、または、チームティーチングによる少人数指導を実施している。</p> <p>【中学校2・3年生】 生徒数が学級平均30人を超える学級で、国語・数学・英語の授業において、習熟度別指導（学習内容の習熟の程度に応じた指導）を実施している。</p> <p><b>○学力・体力向上推進事業</b> 授業改善推進校における授業改善や、小中連携教育推進校における9年間を見通した教材開発など、学力向上に資する取組を行い、その成果を全校に普及させている。 また、体力向上推進委員会において、運動プログラムを策定し、体力向上推進校で、そのプログラムを活用した取組や授業改善を行い、その成果を全校に普及させている。</p> <p><b>○規範性をはぐくむ教育の推進</b> 教材・活動プログラム（平成21年度開発）の活用についての研修会を行うなどし、教員の道徳の授業力を向上させる取組を行っている。</p> <p>（1）全小・中学校の教職員を対象とした、規範性をはぐくむ教育リーディング校（以下リーディング校）における道徳授業力パワーアップ研修 22年度 リーディング校 小学校 9校 中学校 9校 計 18校 23年度 リーディング校 小学校 11校 中学校 9校 計 20校 24年度 リーディング校 小学校 7校 中学校 7校 計 14校</p> <p>（2）全小・中学校の道徳教育推進教師を対象とした研修会 22年度～24年度 8月に教育センターで実施</p>

A 成果 是頁	B 進捗状況
<p>子どもが、自ら考え、判断し、様々な問題に積極的に対応することができるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学ぶ意欲などを身に付けさせ、「生きる力」を育成する必要がある。</p>	<p><b>○学校人権教育推進事業</b>  人権教育に関する教職員の理解を深めるための研修会を実施するとともに、研究推進校における実践的な研究の成果を普及させることによって、人権教育の推進を図っている。</p> <p>(1) 各園・学校における人権教育研修会  22年度 101園・校 (のべ114回)  23年度 94園・校 (のべ106回)  24年度 41園・校 (のべ 51回)</p> <p>(2) 管理職及び人権教育担当教員対象の人権教育研修会  22年度 8月 4日 アステールプラザ中ホール 500名  23年度 11月16日 教育センター第1研修室 80名  24年度 11月21日 教育センター第1研修室 120名</p> <p>(3) 人権教育研修推進校  22年度 小学校9校 中学校3校 計12校  23年度 小学校9校 中学校3校 計12校  24年度 小学校4校 中学校2校 計 6校</p> <p><b>○学校評価の推進</b>  学校経営や教育活動の充実・改善を図るため、効果的・効率的な自己評価、学校関係者評価を推進するとともに、専門家による第三者評価を実施している。</p> <p><b>○こどもの読書活動の推進</b>  拠点校を定めて学校図書館の司書業務を担当する事務職員を配置し、本事務職員が市立小・中学校を巡回訪問することにより、学校図書館を活性化させ、こどもの読書活動の一層の充実を図っている。</p> <p><b>○いきいき体験オープンスクール</b>  自然環境に恵まれた筒瀬小学校、似島小学校・似島中学校において、通学区域外からの通学を認め、自然を生かした体験活動などを取り入れた教育を行っている。</p> <p><b>○プロフェッショナル人材活用事業</b>  高等学校への大学教授や産業会の第一線で活躍している企業人などを招へいするとともに、専門高校において実施しているインターンシップを支援する。</p> <p>22年度 実施時間 91時間  23年度 実施時間 115時間  24年度 実施時間 122時間</p>

A 課 題	B 進捗状況
<p>子どもが、自ら考え、判断し、様々な問題に積極的に対応することができるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学ぶ意欲などを身に付けさせ、「生きる力」を育成する必要がある。</p>	<p><b>○高校生の国外留学推進事業</b>  国際的視野を持った高校生の育成を図るため、国外留学の実施及び交換留学生の受け入れを行っている。</p> <p>22年度 派遣生7名 受入生5名  23年度 派遣生6名 受入生5名  24年度 派遣生7名 受入生5名</p> <p><b>○小学校における消費者教育の教材用DVDの作成</b>  小学校（5・6年生対象）の家庭科の授業において活用できる教材用DVDを作成した。（24年度に実施）  〔配布校数〕 小学校 147校</p>

A 成果 是頁	B 進捗状況
<p>豊かな感性や体力を育むため、芸術や文化、スポーツに関する様々な体験をする機会を増やす必要がある。</p>	<p><b>○学力・体力向上推進事業（再掲）</b>  授業改善推進校における授業改善や、小中連携教育推進校における9年間を見通した教材開発など、学力向上に資する取組を行い、その成果を全校に普及させている。  また、体力向上推進委員会において、運動プログラムを策定し、体力向上推進校で、そのプログラムを活用した取組や授業改善を行い、その成果を全校に普及させている。</p> <p><b>○感動体験推進事業</b>  特色のある体験活動（食・文化・芸術・ものづくり・環境・福祉・修養・自然・仲間づくりなど）を通して、コミュニケーション能力や社会性の涵養を図っている。  〔実施校数〕  22年度 幼稚園6園、小学校62校、中学校10校、特別支援学校1校  23年度 幼稚園8園、小学校65校、中学校9校、特別支援学校1校  24年度 幼稚園7園、小学校64校、中学校11校、特別支援学校1校</p> <p><b>○伝統文化に関する教育の推進事業</b>  伝統文化の専門家を学校へ派遣し、児童生徒が伝統文化に直接触れる機会を提供することにより、教科等における伝統文化に関する教育を推進している。</p> <p><b>○文化の祭典</b>  小・中・高等学校における文化芸術活動の成果を発表する場として、文化の祭典を開催している。  〔実施校数〕 22年度 小学校141校、中学校57校、高等学校9校  23年度 小学校142校、中学校64校、高等学校9校  24年度 小学校142校、中学校62校、高等学校9校</p> <p><b>○中学校文化部活動活性化支援事業</b>  中学校の文化部に文化・芸術に造詣が深く、指導力の優れた地域の人材を招へいしている。</p> <p><b>○中学校運動部活動活性化支援事業</b>  中学校の運動部活動に専門的技術指導力を備えた地域のスポーツ経験者を招へいしている。</p> <p><b>○Do スポーツ体育指導者招へい事業</b>  小・中・高等学校、特別支援学校の体育・保健体育の指導や、特別活動、部活動の時間に、プロスポーツ選手や地域のスポーツ経験者を招へいしている。</p>

A 課題	B 進捗状況
<p>豊かな感性や体力を育むため、芸術や文化、スポーツに関する様々な体験をする機会を増やす必要がある。</p>	<p>※ 児童生徒が意欲的に体力向上の取組を行うようにするため、「体力アップ認定証」及び「体力優秀証」の交付等を行っている。</p> <p>〔体力アップ認定証交付数の割合〕</p> <p>22年度 34.5%</p> <p>23年度 40.5%</p> <p>24年度 42.1%</p>

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

主な施策展開 ② 小学校教育との連携の推進など就学前教育の充実

A 成果 見直し	B 進捗状況
<p>生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育が重要であるため、教育の質の向上と幼児期から学童期を通して一貫性のある教育を行う必要がある。</p>	<p>○就学前教育・保育推進事業</p> <p>就学前教育・保育推進プログラムの研修会などにより、就学前保育を充実させるとともに、各小学校区において幼稚園・保育園・小学校の教員等で構成する連携推進委員会を設置し、合同研修会や交流事業を実施している。</p> <p>(1) 実践研究の推進</p> <p>全小学校区において、各小学校区内又は近隣にある幼稚園、保育園、認定こども園と小学校が連携して年間指導計画の作成や、就学前教育・保育から小学校教育へのスムーズな移行を図るための指導のあり方等について、年1回以上の幼・保・小合同研修会（交流研究授業）などを通して、実践研究を行う。</p> <p>(2) 園に行こう週間の実施</p> <p>幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の滑らかな接続を図るとともに、小学校教育のより一層の充実に資するため、小学校の教員が園を訪問し、保育観察を行い、観察したことを校内で報告・共有化を図り、保育から学んだことを日々の教育活動に活かす「園に行こう週間」を設定している。</p>

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

主な施策展開 ③学校・家庭・地域社会による教育の推進

A 課 題	B 進捗状況
<p>豊かな感性や体力を育むため、芸術や文化、スポーツに関する様々な体験をする機会を増やす必要がある。</p>	<p>○広島市立学校特別教室等開放事業 学校の特別教室等を活用して、学校教育に支障がない平日の夜間や学校休業日に、地域住民に学習文化活動、まちづくり・ボランティア活動の場を提供する。 〔実施時間〕 22年度 2,126.0時間 23年度 2,004.5時間 24年度 2,171.5時間</p>

A 課 題	B 進捗状況																																																																			
<p>基本的な生活習慣が身についていない子どもが増加傾向にあるため、家庭・学校・地域社会が連携して取り組む必要がある。</p>	<p><b>○ふれあい活動推進事業</b> 各中学校区内の小・中学校、家庭、地域の交流を支援することにより、学校、家庭、地域のそれぞれの教育機能向上と連携の強化に努めることを目的とし、62中学校区において事業を推進している。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <table border="1" data-bbox="635 474 1374 1249"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 容</th> <th>平成22年度 協議会数</th> <th>平成23年度 協議会数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1 地域実態 の把握</td> <td>地域巡視</td> <td>62</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>情報交換等</td> <td>62</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 小中連携</td> <td>公開授業</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>交流会</td> <td>21</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>情報交換</td> <td>32</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">3 啓発活動</td> <td>講演会</td> <td>21</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>挨拶運動</td> <td>62</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>標語等</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>横断幕等</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>啓発資料作成</td> <td>14</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">4 体験活動</td> <td>地域美化</td> <td>46</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>交換会</td> <td>38</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>視察訪問等</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>地域行事参加</td> <td>40</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>生活体験</td> <td>29</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>5 いじめ・不登校の児童生徒支援</td> <td>54</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>6 問題行動のある児童生徒支援</td> <td>54</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○食育推進計画の推進（再掲）</b> 平成23年8月に「第2次広島市食育推進計画」を策定し、「わ食の日事業」「朝ごはんキャンペーン事業」「嚙ミング30運動の推進」など10の重点プログラムを設けて官民一体となった取組を進めている。</p> <p><b>○電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりの推進事業（再掲）</b></p> <p>(1) ノー電子メディアデー（平成21年度までは「ノーテレビデー」） 各家庭で電子メディアとの関わり方について考え改善を図るための契機とすることを目的として、電子メディアを使用しない日を作る取組を実施している。</p> <table border="1" data-bbox="561 1792 1474 1877"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>19,123</td> <td>20,119</td> <td>18,034</td> </tr> </tbody> </table>	内 容		平成22年度 協議会数	平成23年度 協議会数	1 地域実態 の把握	地域巡視	62	62	情報交換等	62	62	2 小中連携	公開授業	11	12	交流会	21	23	情報交換	32	35	3 啓発活動	講演会	21	24	挨拶運動	62	62	標語等	23	25	横断幕等	7	6	啓発資料作成	14	12	4 体験活動	地域美化	46	47	交換会	38	40	視察訪問等	8	7	地域行事参加	40	37	生活体験	29	26	5 いじめ・不登校の児童生徒支援	54	56	6 問題行動のある児童生徒支援	54	56	区 分	22年度	23年度	24年度	参加者数	19,123	20,119	18,034
内 容		平成22年度 協議会数	平成23年度 協議会数																																																																	
1 地域実態 の把握	地域巡視	62	62																																																																	
	情報交換等	62	62																																																																	
2 小中連携	公開授業	11	12																																																																	
	交流会	21	23																																																																	
	情報交換	32	35																																																																	
3 啓発活動	講演会	21	24																																																																	
	挨拶運動	62	62																																																																	
	標語等	23	25																																																																	
	横断幕等	7	6																																																																	
	啓発資料作成	14	12																																																																	
4 体験活動	地域美化	46	47																																																																	
	交換会	38	40																																																																	
	視察訪問等	8	7																																																																	
	地域行事参加	40	37																																																																	
	生活体験	29	26																																																																	
5 いじめ・不登校の児童生徒支援	54	56																																																																		
6 問題行動のある児童生徒支援	54	56																																																																		
区 分	22年度	23年度	24年度																																																																	
参加者数	19,123	20,119	18,034																																																																	



A 課 題	B 進捗状況											
<p>基本的な生活習慣が身についていない子どもが増加傾向にあるため、家庭・学校・地域社会が連携して取り組む必要がある。</p>	<p>(2) 広島市電子メディア・インストラクター養成 電子メディアに関する講習会を実施する広島市電子メディア・インストラクターを養成している。 (電子メディア・インストラクター認定者数：96人 (H24 末))</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養成講座受講者数 (うち認定者数)</td> <td>30 (21)</td> <td>14 (13)</td> <td>34 (33)</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	22 年度	23 年度	24 年度	養成講座受講者数 (うち認定者数)	30 (21)	14 (13)	34 (33)
	区 分	22 年度	23 年度	24 年度								
	養成講座受講者数 (うち認定者数)	30 (21)	14 (13)	34 (33)								
<p>(3) 電子メディアに関する講習会の開催 (ケータイ出前講座) 広島市電子メディア・インストラクターを講師として、保護者、地域住民及び児童・生徒に対する講習会を実施している。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者数</td> <td>3,285</td> <td>9,092</td> <td>5,885</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	22 年度	23 年度	24 年度	受講者数	3,285	9,092	5,885	
区 分	22 年度	23 年度	24 年度									
受講者数	3,285	9,092	5,885									

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 2 多様な教育の推進

主な施策展開 ①平和教育の推進

A 成果 見直し	B 進捗状況
<p>子どもたちの平和意識の低下が懸念される中、子どもたちに被爆体験を確かに継承し、自らが被爆の実相等の事実を通して考え、世界恒久平和の実現に向けて行動することのできる子どもたちを育成する必要がある。</p>	<p><b>○子どもたちの平和学習推進事業</b>          被爆体験を聴く会及び平和を考える集い等を開催するとともに、小学校から高等学校までの12年間を見通した平和教育プログラムを策定し、平和教育の充実を図っている。</p> <p>(1) 被爆体験を聴く会          市立学校において、被爆体験者を招へいし、被爆の実相や平和への願いを聴く取組を行っている。          22年度 実施校：小学校122校(87%)、中学校39校(61%)          23年度 実施校：小学校122校(87%)、中学校38校(59%)          24年度 実施校：小学校110校(77%)、中学校33校(52%)</p> <p>(2) 平和を考える集い          市立学校において、平和記念日に焦点をあてて開催している。          22年度 実施校：小学校141校(100%)、中学校64校(100%)          23年度 実施校：小学校142校(100%)、中学校64校(100%)          24年度 実施校：小学校142校(100%)、中学校64校(100%)</p> <p>(3) 平和教育プログラムの策定          平和教育プログラムの試案に基づいて実施した教材開発協力校における実践研究の成果等を踏まえ、小学校から高等学校までの12年間を見通して、児童生徒の発達段階に即して目標や内容を設定した平和教育プログラムを策定した。          策定委員会構成員：学識経験者、平和記念資料館職員          小・中・高等学校長及び教諭          教材開発協力校：小学校4校、中学校4校、高等学校2校</p> <p><b>○小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信</b></p> <p>(1) こどもピースサミット          平和に関する作文を募集し、「平和の歌声・意見発表会」の中で選ばれた小学校6年生の代表による平和記念式典での「平和への誓い」を発信することを通じて、子どもたちの平和への意識の高揚を図っている。          22年度 作文応募校割合 93.6%          23年度 作文応募校割合 94.4%          24年度 作文応募校割合 100%</p> <p>(2) ひろしま子ども平和議会          平和記念式典に参列するために訪れる子どもたちと広島の子どもたちが、共に平和メッセージを発信することを通して、子どもたちの平和意識の高揚と平和への主体的な取組の促進を図っている。          22年度 167人 参加校：小学校1校、中学校6校、高等学校4校          (県外より参加：2校、1団体)          23年度 330人 参加校：中学校5校、高等学校3校          (県外より参加：1校、3団体)</p>

A 成果 是頁	B 進捗状況
<p>子どもたちの平和意識の低下が懸念される中、子どもたちに被爆体験を確かに継承し、自らが被爆の実相等の事実を通して考え、世界恒久平和の実現に向けて行動することのできる子どもたちを育成する必要がある。</p>	<p>24年度 544人 参加校：小学校3校、中学校2校、高等学校3校 (県外より参加：2団体)</p> <p>(3)「平和への誓い」アクションプログラム 県外の学校との平和交流において、平和メッセージの発信など「平和への誓い」を具現化する取組を通して、よりよい社会の創造及び国際社会の平和を発信に貢献する意欲や態度を育成している。</p> <p>22年度 実施校：幼稚園1園、小学校22校、中学校12校 高等学校4校</p> <p>23年度 実施校：幼稚園3園、小学校20校、中学校32校 高等学校4校</p> <p>24年度 実施校：幼稚園0園、小学校25校、中学校13校 高等学校4校</p> <p>○中・高校生ピースクラブの開催 対象：中・高校生 〔参加人数〕 平成22年度 24人 平成23年度 31人 平成24年度 34人</p> <p>○平和学習出張講座 使用する教材を小学校用、中・高校生用の2種類で実施した。平成25年度からは、小学生用を低学年用・高学年用の2種類に、中学生用と高校生用を別々に作成して実施する。 〔実施校数〕 平成22年度 10校 平成23年度 20校 平成24年度 48校</p> <p>○こども平和キャンプの開催 対象：小学4年生～中学3年生 〔参加人数〕 平成22年度 50人 平成23年度 51人 平成24年度 30人</p> <p>○修学旅行生への被爆体験講話等 〔実施件数〕 平成22年度 1,993件 平成23年度 1,960件 平成24年度 1,890件</p>

A 成果 是頁	B 進捗状況																																																														
<p>子どもたちの平和意識の低下が懸念される中、子どもたちに被爆体験を確かに継承し、自らが被爆の実相等の事実を通して考え、世界恒久平和の実現に向けて行動することのできる子どもたちを育成する必要がある。</p>	<p><b>○被爆体験記の朗読事業の実施</b>            平和記念公園を訪れる子どもたちを対象に朗読会を開催するとともに、学校等への出前朗読会、朗読セットの貸し出しなどを行う。</p> <p>〔開催回数・貸し出し件数〕            平成 22 年度 朗読会 213 回、貸出 23 件            平成 23 年度 朗読会 248 回、貸出 22 件            平成 24 年度 朗読会 223 回、貸出 30 件</p> <p><b>○広島・長崎市児童生徒平和のつどい</b>            夏休みに広島・長崎市の児童生徒が隔年で両市を訪問し合い、平和学習を行っている。</p> <p>〔参加者数〕 <span style="float: right;">(単位:人)</span></p> <table border="1" data-bbox="564 826 1474 1189"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">22 年度</th> <th colspan="2">23 年度</th> <th colspan="2">24 年度</th> </tr> <tr> <th>広島市</th> <th>長崎市</th> <th>広島市</th> <th>長崎市</th> <th>広島市</th> <th>長崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>5</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>43</td> <td>42</td> <td>49</td> <td>48</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>57</td> <td>55</td> <td>52</td> <td>71</td> <td>75</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>開催地</td> <td colspan="2">広島市</td> <td colspan="2">長崎市</td> <td colspan="2">広島市</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○平和記念資料館学習ワークブックの作成</b>            小学生用、小学生指導者用、中・高校生用、中・高校生指導者用の 4 種類を作成し、配布した。</p> <p>〔配布部数〕            平成 22 年度 約 43 万部            平成 23 年度 約 27 万部            平成 24 年度 約 21 万部</p> <p><b>○インターネットによる平和情報の発信</b>            子ども向けのサイト「キッズ平和ステーション」を作成した。</p> <p>〔アクセス件数〕            平成 22 年度 約 136 万件            平成 23 年度 約 130 万件            平成 24 年度 約 135 万件</p>	区分	22 年度		23 年度		24 年度		広島市	長崎市	広島市	長崎市	広島市	長崎市	小学生	32	18	25	27	27	24	中学生	5	17	9	12	11	16	高校生	8	8	8	10	10	1	計	45	43	42	49	48	41	指導者	12	12	10	22	27	13	合計	57	55	52	71	75	54	開催地	広島市		長崎市		広島市	
区分	22 年度		23 年度		24 年度																																																										
	広島市	長崎市	広島市	長崎市	広島市	長崎市																																																									
小学生	32	18	25	27	27	24																																																									
中学生	5	17	9	12	11	16																																																									
高校生	8	8	8	10	10	1																																																									
計	45	43	42	49	48	41																																																									
指導者	12	12	10	22	27	13																																																									
合計	57	55	52	71	75	54																																																									
開催地	広島市		長崎市		広島市																																																										

A 成果 是図	B 進捗状況																																																																																		
<p>子どもたちの平和意識の低下が懸念される中、子どもたちに被爆体験を確かに継承し、自らが被爆の実相等の事実を通して考え、世界恒久平和の実現に向けて行動することのできる子どもたちを育成する必要がある。</p>	<p>○姉妹・友好都市等青少年国際交流事業</p> <p>(1) 青少年国際平和未来会議 本市と本市の姉妹・友好都市等の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより世界平和への意識を高める。</p> <p>[参加者数] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="564 479 1474 719"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">22年度</th> <th colspan="2">23年度</th> <th colspan="2">24年度</th> </tr> <tr> <th>広島市</th> <th>他都市</th> <th>広島市</th> <th>他都市</th> <th>広島市</th> <th>他都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青少年</td> <td>24</td> <td>1,200</td> <td>25</td> <td>36</td> <td>5</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>11</td> <td>40</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>35</td> <td>1,240</td> <td>31</td> <td>42</td> <td>7</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>開催地</td> <td colspan="2">重慶・ボルゴグラード市</td> <td colspan="2">広島市</td> <td colspan="2">ボルゴグラード市</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 広島市・大邱広域市青少年交流事業 大邱広域市と青少年の派遣・受入を交互に行い、交流を通して友情と理解を深め、次代を担う青少年の世界平和への意識を高める。</p> <p>[参加者数] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="564 987 1474 1227"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">22年度</th> <th colspan="2">23年度</th> <th colspan="2">24年度</th> </tr> <tr> <th>広島市</th> <th>大邱市</th> <th>広島市</th> <th>大邱市</th> <th>広島市</th> <th>大邱市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青少年</td> <td>25</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>開催地</td> <td colspan="2">広島市</td> <td colspan="2">大邱広域市</td> <td colspan="2">広島市</td> </tr> </tbody> </table>	区分	22年度		23年度		24年度		広島市	他都市	広島市	他都市	広島市	他都市	青少年	24	1,200	25	36	5	59	指導者	11	40	6	6	2	6	計	35	1,240	31	42	7	65	開催地	重慶・ボルゴグラード市		広島市		ボルゴグラード市		区分	22年度		23年度		24年度		広島市	大邱市	広島市	大邱市	広島市	大邱市	青少年	25	20	22	22	21	20	指導者	5	5	3	4	4	5	計	30	25	25	26	25	25	開催地	広島市		大邱広域市		広島市	
区分	22年度		23年度		24年度																																																																														
	広島市	他都市	広島市	他都市	広島市	他都市																																																																													
青少年	24	1,200	25	36	5	59																																																																													
指導者	11	40	6	6	2	6																																																																													
計	35	1,240	31	42	7	65																																																																													
開催地	重慶・ボルゴグラード市		広島市		ボルゴグラード市																																																																														
区分	22年度		23年度		24年度																																																																														
	広島市	大邱市	広島市	大邱市	広島市	大邱市																																																																													
青少年	25	20	22	22	21	20																																																																													
指導者	5	5	3	4	4	5																																																																													
計	30	25	25	26	25	25																																																																													
開催地	広島市		大邱広域市		広島市																																																																														

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 2 多様な教育の推進

主な施策展開 ②環境教育の推進

A 課 題	B 進捗状況
<p>今日の環境問題は、地球温暖化や都市・生活型公害等、我々の日常生活や社会経済システムに深くかかわっており、こうした問題に対処していくためには、事業者、市民、行政といったすべての主体が環境に配慮した行動をとっていく必要がある。本市では、平成20年度(2008年度)を「温暖化対策行動元年」と位置付け、温暖化対策に積極的に取り組んでいるが、これらの取組を一層推進していくためには、未来を担う子どもたちが、環境問題に関心を持ち、環境保全に参加する態度及び環境問題を解決するための能力を身につけることができるよう、環境教育を充実させる必要がある。</p>	<p><b>○学校給食牛乳パックのリサイクルの推進</b>                  取り組む学級数の拡大に向けて、牛乳普及協会の「牛乳パック回収資材等の提供」を受けていたが、牛乳普及協会から学校への物的援助が平成21年度で終了した。                  [学校給食牛乳パックリサイクル実施校(小・中)]                  平成22年度 102校                  平成23年度 102校                  平成24年度 104校</p> <p><b>○学校給食によるごみの量の削減</b>                  平成23年度から平成25年度までの3ヵ年間に、すべての小・中学校において、学校給食における残食率自校比1割減を達成することを掲げている。                  [学校給食の残食率]                  (小学校) (中学校)                  平成22年度 … 3.0% 13.9%                  平成23年度 … 2.1% 6.2%                  平成24年度 … 2.0% 6.1%</p> <p><b>○高校生による温暖化対策チャレンジ事業</b>                  市立広島工業高等学校において、環境センサーネットワーク研究、学校施設の温暖化対策研究を行うとともに、二酸化炭素濃度センサーの自主開発を行っている。                  連携して取り組む小・中学校にCO<sub>2</sub>センサーユニット配布した数                  22年度 3台(環境局経由で提供)                  23年度 1台                  24年度 8台</p> <p><b>○学校におけるCO<sub>2</sub>見える化推進事業</b>                  (1) 子どもの地球温暖化対策に対する意識を高めるため、モデル校に二酸化炭素濃度センサーを設置し、濃度表示(CO<sub>2</sub>見える化)を行った。                  [二酸化炭素濃度センサー設置校数]                  22年度 6校</p> <p>(2) 学校内に省エネナビを設置し、消費電力の「見える化」を行うことで、児童・生徒の省エネ行動を推進し、学校における電気使用量の削減に取り組んだ。                  [省エネナビ設置校数]                  23年度 2校                  24年度 2校</p>

A 課 果 是 頁	B 進 捗 状 況
<p>今日の環境問題は、地球温暖化や都市・生活型公害等、我々の日常生活や社会経済システムに深くかかわっており、こうした問題に対処していくためには、事業者、市民、行政といったすべての主体が環境に配慮した行動をとっていく必要がある。本市では、平成20年度(2008年度)を「温暖化対策行動元年」と位置付け、温暖化対策に積極的に取り組んでいるが、これらの取組を一層推進していくためには、未来を担う子どもたちが、環境問題に関心を持ち、環境保全に参加する態度及び環境問題を解決するための能力を身につけることができるよう、環境教育を充実させる必要がある。</p>	<p><b>○広島地球ウォッチングクラブ事業(再掲)</b>  市内で環境保全活動を行う3歳から高校生までの子どもたちのグループに対するサポートや地域の自然観察会等の行事を実施する。  〔登録グループ数(人数)〕  22年度末 27グループ(386人)  23年度末 26グループ(366人)  24年度末 32グループ(511人)</p> <p><b>○学校等における環境美化教育の推進(環境ポスターの募集)</b>  広島市内にある小・中学校の児童・生徒から募集したポスターを審査し、市長賞、特選の受賞者及び学校奨励賞の受賞校を表彰するとともに、市長賞、特選、入選作品の展示を実施している。  平成22年度 応募数95校、5,377人 入賞者数171人 学校奨励賞10校  平成23年度 応募数97校、5,120人 入賞者数388人 学校奨励賞10校  平成24年度 応募数91校、4,978人 入賞者数387人 学校奨励賞10校</p> <p><b>○清掃事業の普及啓発(ごみのおはなし)</b>  広島市内にある小学校3・4年生を対象にごみ処理についての関心と理解を深めてもらうために社会科副読本「わたしたちの広島市」の補助教材として作成・配付している。  〔配付冊数〕  平成22年度 12,767冊  平成23年度 12,492冊  平成24年度 12,527冊</p> <p><b>○アースキッズ・プロジェクト(再掲)</b>  自主的に環境学習を行っている子どもたちとその指導者を対象に、宿泊体験を含めた総合的環境教育プログラムを実施した。(公募提案型協働モデル事業22年度採択事業)  〔参加者(人数)〕  23年度 12人  24年度 24人</p> <p><b>○小・中学校では、「環境に働きかける実践力の育成」に重点をおき、6月を「広島市立学校環境月間」と設定するとともに、年間を通して環境教育に取り組んでいる。</b>  教育委員会では、各学校へ「学校エコライフの取組」、「家庭エコライフの取組」、「企業の出前授業」等への取組の中から、児童生徒の実態及び環境教育に係る全体計画、年間指導計画を踏まえ、1つ以上選択して取り組むよう呼びかけている。  22年度 小学校 実施率100%、中学校 実施率100%  23年度 小学校 実施率100%、中学校 実施率100%  24年度 小学校 実施率100%、中学校 実施率100%</p>

A 課 題	B 進捗状況
<p>今日の環境問題は、地球温暖化や都市・生活型公害等、我々の日常生活や社会経済システムに深くかかわっており、こうした問題に対処していくためには、事業者、市民、行政といったすべての主体が環境に配慮した行動をとっていく必要がある。本市では、平成20年度(2008年度)を「温暖化対策行動元年」と位置付け、温暖化対策に積極的に取り組んでいるが、これらの取組を一層推進していくためには、未来を担う子どもたちが、環境問題に関心を持ち、環境保全に参加する態度及び環境問題を解決するための能力を身につけることができるよう、環境教育を充実させる必要がある。</p>	<p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校エコライフの取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「電気・スイッチオフ・節水運動」</li> <li>・ 「牛乳パックリサイクルの推進」</li> <li>・ 「給食によるごみの量削減」</li> </ul> </li> <li>○ 家庭エコライフの取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地球に優しい暮らし」</li> <li>・ 「ライトダウンキャンペーン」</li> </ul> </li> </ul> <p>22年度 小学校参加人数 36,542人、中学校参加人数 5,586人  23年度 小学校参加人数 50,132人、中学校参加人数 5,993人  24年度 小学校参加人数 67,404人、中学校参加人数 6,801人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「夏休みこどもエコチャレンジ」</li> </ul> <p>22年度 小学校 132校、実施率 93%  23年度 小学校 136校、実施率 96%  24年度 小学校 139校、実施率 98%</p>



基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 3 いじめ、不登校、非行等対策の充実

主な施策展開 ①相談・支援体制の充実

A 課 果 是 真	B 進 捗 状 況																												
<p>1 いじめの認知件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は227件であり、平成19年度と比べると、46件減少している。</p> <p>2 不登校児童生徒数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、1221人であり、平成17年度から1200人前後でほぼ横ばい状況で推移している。</p> <p>3 暴力行為の発生件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、468件であり、平成17年度から増加傾向にある。</p>	<p><b>○いじめ・不登校等対策ふれあい事業</b></p> <p>(1) ふれあいひろば  登校することができても教室に入ることのできない児童生徒の校内の居場所として全市立小・中学校（似島学園小中学校を除く）に設置している。  児童生徒の教室への復帰を目的として、地域の人材からなる「ふれあいひろば推進員」が不登校傾向の児童生徒への相談活動や学習支援等を行う。</p> <p>[ふれあいひろば開設状況及びふれあいひろば推進員数]</p> <table border="1" data-bbox="600 752 1500 992"> <thead> <tr> <th colspan="2">年 度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>開設校数 (校)</td> <td>137</td> <td>140</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>全小学校数 (校)</td> <td>141</td> <td>142</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>開設校数 (校)</td> <td>61</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>全中学校数 (校)</td> <td>64</td> <td>64</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>人 数 (校)</td> <td>381</td> <td>382</td> <td>385</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○学校問題解決支援事業</b></p> <p>(1) 弁護士・精神科医への相談  学校からの要請を受け、解決困難な生徒指導上の課題に対し、弁護士等が、専門的知見をもって対応策等を提示し、助言を行う。</p> <p>[実績]</p> <p>22年度 5件  23年度 7件  24年度 13件</p> <p>(2) スクールサポート指導員の派遣  生徒指導上の課題に適切に対応するため、学校からの要請を受け、警察OB等からなるスクールサポート指導員を学校に派遣し、問題行動等を起こす児童生徒等やその保護者に対する相談活動や関係機関等との連携活動を行う。平成23年度からは、スクールサポート指導員を8名から16名に増員し、取組の充実を図っている。</p> <p>[実績]</p> <p>23年度 9校に派遣  24年度 9校に派遣</p>	年 度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	小学校	開設校数 (校)	137	140	140	全小学校数 (校)	141	142	142	中学校	開設校数 (校)	61	60	60	全中学校数 (校)	64	64	64	人 数	人 数 (校)	381	382	385
年 度		平成22年度	平成23年度	平成24年度																									
小学校	開設校数 (校)	137	140	140																									
	全小学校数 (校)	141	142	142																									
中学校	開設校数 (校)	61	60	60																									
	全中学校数 (校)	64	64	64																									
人 数	人 数 (校)	381	382	385																									

A 課 題

B 進捗状況

1 いじめの認知件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は227件であり、平成19年度と比べると、46件減少している。

2 不登校児童生徒数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、1221人であり、平成17年度から1200人前後でほぼ横ばい状況で推移している。

3 暴力行為の発生件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、468件であり、平成17年度から増加傾向にある。

○スクールカウンセラー活用事業

似島学園中学校及び安佐北中学校を除く全中・高等学校・特別支援学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、似島学園小学校を除く全小学校に各中学校のスクールカウンセラーを派遣し、各学校における教育相談体制の充実を図る。

〔週当たりの活動時間（平成24年度）〕

- 小学校：1～2時間
- 中学校：6時間
- 高等学校：8時間
- 特別支援学校：8時間

〔スクールカウンセラーの配置校数・人数〕

項目	平成22年度	平成23年度	平成24年度
配置校数(中・高等学校)	70	71	71
スクールカウンセラー(人)	62	63	63

○不登校児童生徒適応指導教室（ふれあい教室）の運営

「ふれあい教室」では、相談員が通室児童生徒及びその保護者のカウンセリングを行い、指導員が通室児童生徒への学習支援やグループ活動・体験活動の指導を行っている。

相談員と指導員は協力し、入室児童生徒の在籍校の教職員や相談機関等と緊密に連携を図り、学校復帰等への支援を行っている。

〔過去3年間の主な体験活動〕

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
教室・中	和太鼓体験 卓球体験	卓球体験	卓球体験 スケート体験
教室・北	卓球体験	卓球体験	パドミントン体験 スケート体験
教室・西	和太鼓体験 福祉体験	陶芸体験	卓球体験 福祉体験 スケート体験 職場体験

A 課 果 是 頁	B 進 捗 状 況
<p>1 いじめの認知件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は227件であり、平成19年度と比べると、46件減少している。</p> <p>2 不登校児童生徒数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、1221人であり、平成17年度から1200人前後でほぼ横ばい状況で推移している。</p> <p>3 暴力行為の発生件数は、小・中・高等学校全体で、平成20年度は、468件であり、平成17年度から増加傾向にある。</p>	<p><b>○いじめ・不登校等予防的生徒指導推進事業</b></p> <p>平成19年・20年度に、教育委員会と広島大学が連携し、4つの中学校区内において小学校と中学校をセットにして研究推進校を指定し、予防的生徒指導の推進に関する「子どもの人間関係づくり推進プログラム」と「いじめ・不登校等への早期支援プログラム」の開発と実践、その効果検証し、平成22年度から全小・中学校で実施している。</p> <p>平成24年度は、予防的生徒指導の定着を図るために、予防的生徒指導推進校を指定し、予防的生徒指導の研究や実践を公開研究会や教育センターでの講座等での実践発表等を行い、全小中学校への普及する取組を行った。</p> <p><b>○「ひきこもり」への支援について検討</b></p> <p>平成18年度より、全小・中学校に対して、ひきこもり状態の児童生徒の有無について実態調査を実施している。本市教育委員会独自に、厚生労働省のひきこもりの定義をもとに、「120日以上継続して学校を欠席している児童生徒で、一日中、家にひきこもっている児童生徒。ただし、家にひきこもりがちではあるが、買い物、遊びなど、外出できるものは除く。」という基準を設けている。</p> <p>実態調査により把握したひきこもり状態の児童生徒について、教育委員会とこども未来局、健康福祉局等の関係課が連携し、情報の共有化と事例検討会を実施している。検討された内容をもとに、個々のケースの状況に応じて、学校と関係機関が個別のケース会議を実施し、当該児童生徒への具体的な支援に生かしている。</p> <p>〔実績：調査により把握したひきこもり状態の児童生徒数〕</p> <p>22年度 小学生3名、中学生10名 計13名  23年度 小学生1名、中学生11名 計12名  24年度 小学生1名、中学生10名 計11名</p>

A 課 題	B 進捗状況						
<p>いじめ、不登校、暴力行為等の課題は、本人、家庭、学校、社会に関わる様々な要因・背景が複雑に絡み合っている場合が多いことから、その解決に当たっては、家庭、学校、地域社会が一体となり、社会全体で取り組むとともに、未然防止や早期発見・早期対応等の取組を充実させる必要がある。</p>	<p><b>○家庭児童相談室（再掲）</b>          子どもの問題で困ったり、悩んでいる親等に対し、各区保健福祉課に配置されている家庭相談員が相談に応じ、必要な助言指導を行っている。          22年度相談件数 12,313件          23年度相談件数 16,531件          24年度相談件数 17,526件</p> <p><b>○青少年総合相談センターの運営</b>          幼児期から思春期までの心理や行動の問題など、青少年やその保護者等が抱えるあらゆる不安や悩み事相談に専門的立場から総合的に対応し、その改善・解決に向け、援助・支援を行っている。          [相談件数]</p> <table border="1" data-bbox="576 745 1474 831"> <thead> <tr> <th>22年度延べ</th> <th>23年度延べ</th> <th>24年度延べ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,364件</td> <td>7,191件</td> <td>7,083件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○こども家庭相談コーナーの運営（再掲）</b>          平成24年度から、安佐南区に子どもに関する総合窓口として「こども家庭相談コーナー」を設置し、子どもに関するあらゆる相談に対応するとともに、軽微な虐待ケースへの対応等を行っている。</p> <p><b>○研修事業</b>          幼稚園教育、いじめ・不登校対策、カウンセリング等をはじめとする生徒指導に係る教職員研修を体系的に実施した。          22年度 19研修 受講者 1,579名          23年度 20研修 受講者 1,906名          24年度 20研修 受講者 1,865名</p> <p><b>○ひろしまチャイルドライン（子ども電話相談）運営に対する助成（再掲）</b>          子どもたちの悩みを聞く大人が居ることが認識でき、子どもたちが生きる希望を持てるよう活動をしている特定非営利活動法人ひろしまチャイルドラインに補助金を交付している。          相談件数は、毎年約9,000件を推移しており、相談員の育成が急務となっている。          22年度 8,118件          23年度 8,069件          24年度 9,957件          [補助金の額]          22年度～24年度 毎年300,000円</p>	22年度延べ	23年度延べ	24年度延べ	7,364件	7,191件	7,083件
22年度延べ	23年度延べ	24年度延べ					
7,364件	7,191件	7,083件					

## A 課 題

## B 進捗状況

いじめ、不登校、暴力行為等の課題は、本人、家庭、学校、社会に関わる様々な要因・背景が複雑に絡み合っている場合が多いことから、その解決に当たっては、家庭、学校、地域社会が一体となり、社会全体で取り組むとともに、未然防止や早期発見・早期対応等の取組を充実させる必要がある。

## 〔いじめの認知件数の推移〕(件)

校 種	平成 22 年度	平成 23 年度
小学校	108	101
中学校	122	113
高等学校	3	3
合 計	233	217

## 〔不登校児童生徒数の推移〕(人)

校 種	平成 22 年度	平成 23 年度
小学校	276	287
中学校	846	827
高等学校	43	38
合 計	1,165	1,152

## 〔暴力行為の発生件数の推移〕(件)

校 種	平成 22 年度	平成 23 年度
小学校	125	94
中学校	589	543
高等学校	9	9
合 計	723	646

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 3 いじめ、不登校、非行等対策の充実

主な施策展開 ②学校・家庭・地域社会における連携の強化

A 課 題	B 進捗状況																																																																																			
<p>いじめ、不登校、暴力行為等の課題は、本人、家庭、学校、社会に関わる様々な要因・背景が複雑に絡みあっている場合が多いことから、その解決に当たっては、家庭、学校、地域社会が一体となり、社会全体で取り組むとともに、未然防止や早期発見・早期対応等の取組を充実させる必要がある。</p>	<p>○スクールソーシャルワーカー活用事業 〔ケース数及び支援人数〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>校種</th> <th>平成 22 年度</th> <th>平成 23 年度</th> <th>平成 24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>84</td> <td>78</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>65</td> <td>67</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>152</td> <td>146</td> <td>173</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ふれあい活動推進事業（再掲） 各中学校区内の小・中学校、家庭、地域の交流を支援することにより、学校、家庭、地域のそれぞれの教育機能向上と連携の強化に努めることを目的とし、62中学校区において事業を推進している。</p> <p>〔実績〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 容</th> <th>平成 22 年度 協議会数</th> <th>平成 23 年度 協議会数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1 地域実態 の把握</td> <td>地域巡視</td> <td>6 2</td> <td>6 2</td> </tr> <tr> <td>情報交換等</td> <td>6 2</td> <td>6 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 小中連携</td> <td>公開授業</td> <td>1 1</td> <td>1 2</td> </tr> <tr> <td>交流会</td> <td>2 1</td> <td>2 3</td> </tr> <tr> <td>情報交換</td> <td>3 2</td> <td>3 5</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">3 啓発活動</td> <td>講演会</td> <td>2 1</td> <td>2 4</td> </tr> <tr> <td>挨拶運動</td> <td>6 2</td> <td>6 2</td> </tr> <tr> <td>標語等</td> <td>2 3</td> <td>2 5</td> </tr> <tr> <td>横断幕等</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>啓発資料作成</td> <td>1 4</td> <td>1 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">4 体験活動</td> <td>地域美化</td> <td>4 6</td> <td>4 7</td> </tr> <tr> <td>交換会</td> <td>3 8</td> <td>4 0</td> </tr> <tr> <td>視察訪問等</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>地域行事参加</td> <td>4 0</td> <td>3 7</td> </tr> <tr> <td>生活体験</td> <td>2 9</td> <td>2 6</td> </tr> <tr> <td>5 いじめ・不登校の児童生徒支援</td> <td>5 4</td> <td>5 6</td> </tr> <tr> <td>6 問題行動のある児童生徒支援</td> <td>5 4</td> <td>5 6</td> </tr> </tbody> </table>	校種	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	幼稚園	2	1	0	小学校	84	78	101	中学校	65	67	72	高等学校	1	0	0	合計	152	146	173	内 容		平成 22 年度 協議会数	平成 23 年度 協議会数	1 地域実態 の把握	地域巡視	6 2	6 2	情報交換等	6 2	6 2	2 小中連携	公開授業	1 1	1 2	交流会	2 1	2 3	情報交換	3 2	3 5	3 啓発活動	講演会	2 1	2 4	挨拶運動	6 2	6 2	標語等	2 3	2 5	横断幕等	7	6	啓発資料作成	1 4	1 2	4 体験活動	地域美化	4 6	4 7	交換会	3 8	4 0	視察訪問等	8	7	地域行事参加	4 0	3 7	生活体験	2 9	2 6	5 いじめ・不登校の児童生徒支援	5 4	5 6	6 問題行動のある児童生徒支援	5 4	5 6
校種	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度																																																																																	
幼稚園	2	1	0																																																																																	
小学校	84	78	101																																																																																	
中学校	65	67	72																																																																																	
高等学校	1	0	0																																																																																	
合計	152	146	173																																																																																	
内 容		平成 22 年度 協議会数	平成 23 年度 協議会数																																																																																	
1 地域実態 の把握	地域巡視	6 2	6 2																																																																																	
	情報交換等	6 2	6 2																																																																																	
2 小中連携	公開授業	1 1	1 2																																																																																	
	交流会	2 1	2 3																																																																																	
	情報交換	3 2	3 5																																																																																	
3 啓発活動	講演会	2 1	2 4																																																																																	
	挨拶運動	6 2	6 2																																																																																	
	標語等	2 3	2 5																																																																																	
	横断幕等	7	6																																																																																	
	啓発資料作成	1 4	1 2																																																																																	
4 体験活動	地域美化	4 6	4 7																																																																																	
	交換会	3 8	4 0																																																																																	
	視察訪問等	8	7																																																																																	
	地域行事参加	4 0	3 7																																																																																	
	生活体験	2 9	2 6																																																																																	
5 いじめ・不登校の児童生徒支援	5 4	5 6																																																																																		
6 問題行動のある児童生徒支援	5 4	5 6																																																																																		

A 課 題	B 進捗状況						
<p>いじめ、不登校、暴力行為等の課題は、本人、家庭、学校、社会に関わる様々な要因・背景が複雑に絡みあっている場合が多いことから、その解決に当たっては、家庭、学校、地域社会が一体となり、社会全体で取り組むとともに、未然防止や早期発見・早期対応等の取組を充実させる必要がある。</p>	<p>○「青少年からのメッセージ」募集・活用</p> <p>毎年、様々なテーマで青少年から作文及び漫画・イラスト形式によるメッセージを募集し、入選作品を「青少年健全育成市民大会」で披露するとともに、入選作品等を掲載したメッセージ集を作成し、学校及び関係団体等へ配布している。平成25年度は、「いじめ」をテーマとしてメッセージを募集し、子ども達に「いじめ」について真剣に考える機会を持たせるとともに、メッセージの活用を学校等へ働きかける。</p> <p>〔応募総数〕</p> <table border="1" data-bbox="587 555 1302 638"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,247件</td> <td>5,863件</td> <td>5,744件</td> </tr> </tbody> </table>	22年度	23年度	24年度	6,247件	5,863件	5,744件
22年度	23年度	24年度					
6,247件	5,863件	5,744件					

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 4 青少年の健全育成等

主な施策展開 ①健全な心身の育成

A 課題	B 進捗状況																													
<p>これまでの取組により、10代の人口妊娠中絶は減少傾向にあるが、さらに改善するために、いのちの大切さや性・性感染症予防に関する正しい知識の普及が必要である。そのため、思春期の子どもたちを取りまく関係者の連携強化に向けての取組を行う必要がある。</p>	<p><b>○思春期保健教育の充実</b> 市立の小・中・高等学校、特別支援学校で、学習指導要領に基づき、年間計画のもと、子どもの発達段階に応じた性教育（エイズ教育を含む。）を実施している。</p> <p><b>○保育園における保育体験学習</b> 小・中・高校生に、保育園において乳幼児とふれ合う機会を提供している。</p> <table border="0"> <tr> <td>22年度</td> <td>実施園数</td> <td>公立保育園</td> <td>62園</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>実施園数</td> <td>公立保育園</td> <td>65園</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>実施園数</td> <td>公立保育園</td> <td>65園</td> </tr> </table> <p><b>○「命の大切さを伝える教育推進プログラム」の策定</b> (1) 命の大切さを伝え、自他の命を共に尊重する力を身に付けさせるため、「エイズ・がん予防、思春期の性・悩み対策」、「飲酒喫煙薬物乱用の防止」、「学校安全対策（不審者対応）」についての検討会議を設置し、指導プログラムの策定及び教材の作成を行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>22・23年度</td> <td>プログラム策定、教材作成</td> </tr> </table> <p>(2) 平成24年度以降、市立小・中・高等学校へ本プログラムを提示し、実情に応じて取組を進めている。</p> <p><b>○高等学校の精神保健に関する研修会</b> 精神保健に関する事例研究を通して、相談指導体制の充実を図る。</p> <table border="0"> <tr> <td>22年度</td> <td>3回の研修会実施</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>3回の研修会実施</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>3回の研修会実施</td> </tr> </table> <p><b>○こころの健康相談（広島市学校保健会）</b> 子どもの指導に悩みのある教職員や保護者を対象に専門医師等による相談を実施する。</p> <table border="0"> <tr> <td>〔相談件数〕</td> <td>22年度</td> <td>1,312件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>23年度</td> <td>1,425件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>24年度</td> <td>1,453件</td> </tr> </table>	22年度	実施園数	公立保育園	62園	23年度	実施園数	公立保育園	65園	24年度	実施園数	公立保育園	65園	22・23年度	プログラム策定、教材作成	22年度	3回の研修会実施	23年度	3回の研修会実施	24年度	3回の研修会実施	〔相談件数〕	22年度	1,312件		23年度	1,425件		24年度	1,453件
22年度	実施園数	公立保育園	62園																											
23年度	実施園数	公立保育園	65園																											
24年度	実施園数	公立保育園	65園																											
22・23年度	プログラム策定、教材作成																													
22年度	3回の研修会実施																													
23年度	3回の研修会実施																													
24年度	3回の研修会実施																													
〔相談件数〕	22年度	1,312件																												
	23年度	1,425件																												
	24年度	1,453件																												



A 結果 是頁	B 進捗状況
<p>未成年者の飲酒及び喫煙は依存症になりやすく、成長期における心身の発育に悪影響を及ぼすことから、より早い時期の飲酒・喫煙防止教育を推進する必要がある。</p>	<p><b>○学校内完全禁煙</b>        喫煙防止教育の指導効果を高め、子どもの喫煙者をなくすことを目的として、市立の全学校内完全禁煙を実施している。        15年度より完全禁煙実施</p> <p><b>○未成年者の禁酒・禁煙を徹底する環境づくり事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 9 関連団体、10 関連事業者、4 行政機関の 23 の構成団体からなる「広島市未成年者の禁酒・禁煙環境づくり事業実行委員会」でキャンペーンの実施をするとともに、平成 22 年度はラッピングバス、川柳の募集、平成 23 年度は、メッセージ・標語の募集、平成 24 年度はキャラクターの募集を行った。</li> <li>2 毎年、5 月 31 日の「世界禁煙デー」とそれから始まる 6 月 6 日までの 1 週間を「禁煙週間」としている。その期間に併せ、大学等に受動喫煙防止対策の必要性を働きかけた。</li> <li>3 未成年者の街頭補導や声かけ等の機会に「未成年者の飲酒・喫煙防止カード」を配布し、相談機関の周知を図った。(平成 22 年度～24 年度 1 万 5 千枚/年)</li> <li>4 保健センターにおいて、中学校や高等学校、専修学校、大学と連携を図り、未成年者の飲酒・喫煙防止のための教育や学園祭等で普及啓発を行った。</li> <li>5 母子手帳交付時、飲酒・喫煙者を把握するとともにパンフレットの配布をし、禁酒・禁煙の指導を行った。</li> <li>6 市内の保育園及び幼稚園において防煙紙芝居を実施するとともに、保護者へパンフレット等を配布した。</li> </ol> <p>[実施園数] 平成 24 年度 確認中</p>

A 成果 是頁	B 進捗状況
<p>1 これまでの取組により、10代の人口妊娠中絶は減少傾向にあるが、さらに改善するために、命の大切さや性、性感染症予防に関する正しい知識の普及が必要である。そのため、思春期の子どもたちを取りまく関係の連携強化に向けての取組を行う必要がある。</p> <p>2 未成年者の飲酒及び喫煙は依存症になりやすく、成長期における心身の発育に悪影響を及ぼすことから、より早い時期の飲酒・喫煙防止教育を推進する必要があるとともに、青少年の間に薬物乱用の拡がりが見られ、薬害や罰則等に関する普及啓発が急務になっている。</p>	<p><b>○思春期保健対策事業</b> 小・中学生を対象に、乳幼児とのふれあい体験や、思春期の子どもを持つ保護者等への講演会を開催するとともに、思春期保健に関わる部署の担当職員により、思春期保健対策の取組状況等についての情報交換を行う。 (保健センターにおけるふれあい体験学習を含む)</p> <p><b>【保護者向け講演会】</b> 平成22年度 4回 135人 平成23年度 4回 81人 平成24年度 7回 120人</p> <p><b>【小・中学生等を対象とした教室】</b> (1) 思春期保健教室 (思春期の心と体の発達、命の大切さ等に関する講演) 平成22年度 6回 1,541人 平成23年度 14回 3,712人 平成24年度 4回 369人 (2) 乳幼児とのふれあい体験 (常設オープンスペース等におけるふれあい体験) 平成22年度 75回 3,956人 平成23年度 49回 3,016人 平成24年度 145回 903人</p> <p>※平成24年度から小中学生を対象とした乳幼児とのふれあい体験を中心に実施するように内容を変更して実施。(平成23年までは、中・高校生を対象とする、講義を中心に実施していた)</p> <p><b>○高校生保育ボランティアの活動支援</b> 青少年センターの高校生保育ボランティアグループ「クローバー」が実施する保育園や乳児院等での実習や自主活動について、支援スタッフとともに指導助言を行っている。 22年度 参加者数延 366人 (20回開催) 23年度 参加者数延 190人 (21回開催) 24年度 参加者数延 173人 (23回開催)</p>

A 課 題	B 進捗状況																				
<p>不登校、ひきこもり等が深刻化しており、こころの問題に対する相談体制を充実させる必要がある。</p>	<p><b>○こころの健康相談（各区保健センター）</b>  保護者等を対象に保健センターにおける精神科医師等による相談を実施している。  22年度 164回  23年度 156回  24年度 156回</p> <p><b>○思春期精神保健に関する相談指導</b>  思春期相談や診療、中・高等学校教員への技術援助・研修の実施や市立高校精神保健連絡会を開催した。</p> <p>[実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="555 748 1485 949"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>思春期相談</td> <td>388回</td> <td>318回</td> <td>315回</td> </tr> <tr> <td>技術援助</td> <td>21回</td> <td>31回</td> <td>18回</td> </tr> <tr> <td>教育研修</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>精神保健連絡会</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○舟入病院小児心療科外来</b>  摂食障害や不登校など思春期のこころの問題について、医療面からこころの健全な発達を支援している。  [診療実施人数]  22年度 摂食障害4人・不登校46人・その他120人  23年度 摂食障害10人・不登校66人・その他144人  24年度 摂食障害13人・不登校62人・その他136人</p> <p><b>○思春期を対象としたメンタルヘルスのリーフレットの作成・配付</b>  平成22年度に教育委員会と協議し、思春期の心の悩みの相談先を周知するリーフレットを作成した。平成23年度から市内の高等学校に入学した生徒全員（1年生）に配付している。</p> <p><b>○ひきこもりがちな青少年への支援事業</b>  ひきこもりがちな青少年に対し、社会体験活動の提供等の支援を行っている。  22年度 参加人数10名 体験活動への延べ参加率97%  前向きな変化が認められた参加者の割合 100%  23年度 参加人数10名 体験活動への延べ参加率93%  前向きな変化が認められた参加者の割合 90%  24年度 参加人数10名 体験活動への延べ参加率99%  前向きな変化が認められた参加者の割合 100%</p>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	思春期相談	388回	318回	315回	技術援助	21回	31回	18回	教育研修	1回	1回	1回	精神保健連絡会	2回	2回	2回
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																		
思春期相談	388回	318回	315回																		
技術援助	21回	31回	18回																		
教育研修	1回	1回	1回																		
精神保健連絡会	2回	2回	2回																		

A 課 題	B 進捗状況		
<p>不登校、ひきこもり等が深刻化しており、こころの問題に対する相談体制を充実させる必要がある。</p>	<p><b>○若者の自立・就労支援対策事業</b></p>		
	<p>ニートの状態にある若者等の支援のため、フリースペースの提供、講座・講演会の開催等を行う。</p>		
	<p>[若者フリースペース利用者数]</p>		
	<p>平成 22 年度 1,256 人</p>		
	<p>平成 23 年度 1,910 人</p>		
	<p>平成 24 年度 4,020 人</p>		
	<p>[進路決定者数]</p>		
	<p>平成 22 年度 24 人</p>		
	<p>平成 23 年度 39 人</p>		
	<p>平成 24 年度 45 人</p>		
<p><b>○青少年支援メンター制度の推進</b></p>			
<p>人生経験の豊富な大人（メンター）と子どもが継続的・定期的に交流することにより、子どもの精神的成長を促すとともに、生活習慣の確立や学力の向上を図る。</p>			
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
交流 組数	127 組	158 組	152 組
取組 内容	<p>・広報・啓発活動の推進 ・メンターの資質向上と相互連携（a.メンターだよりの発行 b.研修会・交流行事の開催）</p>		
<p><b>○青少年によい環境をあたえる運動</b></p>			
<p>毎年 7 月を「青少年によい環境をあたえる運動」月間と定め、期間中、各区役所及び各区青少年健全育成連絡協議会が中心となり、市民意識の啓発活動や親子ふれあいのつどいなど、青少年健全育成のための各種事業を集中的に実施している。</p>			
<p>[参加者総数]</p>			
22 年度	23 年度	24 年度	
約 4,700 人	約 4,400 人	約 4,500 人	
<p><b>○青少年健全育成強調月間</b></p>			
<p>毎年 11 月を「青少年健全育成強調月間」と定め、期間中、市、各区役所、教育委員会、青少年健全育成連絡協議会が中心となり、市・区青少年健全育成大会や、小・中学生等の意見発表会など、青少年健全育成のための各種事業を集中的に実施している。</p>			
<p>[参加者総数]</p>			
22 年度	23 年度	24 年度	
約 5,300 人	約 5,700 人	約 6,700 人	

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 4 青少年の健全育成等

主な施策展開 ②青少年を取り巻く有害環境への対応

A 成果 見直し	B 進捗状況								
<p>インターネットや携帯電話などの普及に伴い、有害情報への接続や子どもの基本的な生活習慣の阻害などの問題が顕著になっており、電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりを行う必要がある。</p>	<p>○電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりの推進事業（再掲）</p> <p>(1) ノー電子メディアデー（平成21年度までは「ノーテレビデー」） 各家庭で電子メディアとの関わり方について考え改善を図るための契機とすることを目的として、電子メディアを使用しない日を作る取組を実施している。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>19,123</td> <td>20,119</td> <td>18,034</td> </tr> </tbody> </table>	区分	22年度	23年度	24年度	参加者数	19,123	20,119	18,034
	区分	22年度	23年度	24年度					
	参加者数	19,123	20,119	18,034					
	<p>(2) 広島市電子メディア・インストラクター養成 インターネット上で子どもたちの見守り活動や電子メディアに関する講習会を実施する広島市電子メディア・インストラクターを養成している。 (電子メディア・インストラクター認定者数：96人（H24度末）)</p>								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養成講座受講者数 (うち認定者数)</td> <td>30 (21)</td> <td>14 (13)</td> <td>34 (33)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	22年度	23年度	24年度	養成講座受講者数 (うち認定者数)	30 (21)	14 (13)	34 (33)	
区分	22年度	23年度	24年度						
養成講座受講者数 (うち認定者数)	30 (21)	14 (13)	34 (33)						
<p>(3) 電子メディアに関する講習会の開催（ケータイ出前講座） 広島市電子メディア・インストラクターを講師として、保護者、地域住民及び児童・生徒に対する講習会を実施している。</p>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者数</td> <td>3,285</td> <td>9,092</td> <td>5,885</td> </tr> </tbody> </table>	区分	22年度	23年度	24年度	受講者数	3,285	9,092	5,885	
区分	22年度	23年度	24年度						
受講者数	3,285	9,092	5,885						

A 課 題	B 進捗状況																																							
<p>これまでの取組により、暴走族は減少しているものの、暴走族と交友したり、い集を繰り返している「暴走族予備軍」と呼ばれている非行少年たちが、新たに暴走族を結成しようとするなど予断を許さない状況がある。そのため、暴走族への加入防止に焦点を当てて取り組むとともに、家庭・学校・地域社会・関係機関などの連携を一層強化した取組を行う必要がある。</p>	<p><b>○暴走族加入防止・非行防止教室</b>  毎年、非行防止教室等の実施について、各小・中・高等学校及び広島特別支援学校に対して通知している。  また、非行少年グループの現状を常に把握、共有化し、各学校において実施されている非行防止教室の充実を図るとともに、各学校・地域が、実態に応じて「非行少年を生み出さない」ための行動連携を推進している。</p> <p><b>○青少年指導員街頭補導・環境浄化活動</b>  各地区の青少年指導員が、各小学校区内を巡回し、問題行為少年の街頭補導及び環境浄化活動を行っている。</p> <table border="0"> <tr> <td>22年度</td> <td>街頭補導人員</td> <td>2,768人</td> <td>環境浄化活動</td> <td>44,563か所</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>街頭補導人員</td> <td>2,406人</td> <td>環境浄化活動</td> <td>43,418か所</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>街頭補導人員</td> <td>2,265人</td> <td>環境浄化活動</td> <td>43,627か所</td> </tr> </table> <p><b>○非行防止活動推進事業</b>  (事業組替 24年度まで暴走族加入防止対策推進事業)  非行防止に係る啓発活動の充実を図るとともに、区や地域が一体となった非行防止への取組を行っている。</p> <p><b>○非行防止自立支援事業</b>  (事業組替 24年度まで非行少年対策関係機関連携事業)  学校・地域・関係機関などが連携した非行少年の立ち直りのための支援の充実と環境づくりを行っている。</p> <p>(1) 居場所づくり支援  文化・スポーツなどを通じた少年たちの居場所づくりのための活動を支援している。</p> <table border="0"> <tr> <td>22年度</td> <td>助成団体数</td> <td>5団体</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>助成団体数</td> <td>3団体</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>助成団体数</td> <td>3団体</td> </tr> </table> <p>(2) 就労・就学サポート  就労や学習・就学に関する助言や指導を行っている。</p> <table border="0"> <tr> <td>22年度</td> <td>就労支援</td> <td>33人</td> <td>就学支援</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>就労支援</td> <td>28人</td> <td>就学支援</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>就労支援</td> <td>21人</td> <td>就学支援</td> <td>6人</td> </tr> </table>	22年度	街頭補導人員	2,768人	環境浄化活動	44,563か所	23年度	街頭補導人員	2,406人	環境浄化活動	43,418か所	24年度	街頭補導人員	2,265人	環境浄化活動	43,627か所	22年度	助成団体数	5団体	23年度	助成団体数	3団体	24年度	助成団体数	3団体	22年度	就労支援	33人	就学支援	19人	23年度	就労支援	28人	就学支援	12人	24年度	就労支援	21人	就学支援	6人
22年度	街頭補導人員	2,768人	環境浄化活動	44,563か所																																				
23年度	街頭補導人員	2,406人	環境浄化活動	43,418か所																																				
24年度	街頭補導人員	2,265人	環境浄化活動	43,627か所																																				
22年度	助成団体数	5団体																																						
23年度	助成団体数	3団体																																						
24年度	助成団体数	3団体																																						
22年度	就労支援	33人	就学支援	19人																																				
23年度	就労支援	28人	就学支援	12人																																				
24年度	就労支援	21人	就学支援	6人																																				

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 5 安全・安心なまちづくり

主な施策展開 ①地域ぐるみで子どもの安全を守る態勢づくりの推進

A 成果 見聞	B 進捗状況						
<p>広島市における刑法犯認知件数は、年々減少しているものの、平成20年(2008年)は13,983件で、広島県内全体の約半数を占めている。そのうち6割弱は、身近な犯罪と呼ばれる乗り物盗(自転車盗など)、街頭犯罪(路上強盗、ひったくり、恐喝、車上ねらい、自動販売機ねらいなど)、侵入強・窃盗などとなっている。また、各地で、子どもが不審者から声をかけられたり、あとをつけられたりするなどの事件が多く発生しており、登下校中等の子どもの安全確保が重要な課題となっている。このため、防犯意識の高揚、地域の自主的な防犯活動の支援など市民が安心して暮らせる犯罪の起こりにくい安全なまちづくりを推進する必要がある。</p>	<p><b>○子どもの安全対策推進事業</b></p> <p>(1) 地域学校安全指導員による巡回活動 市立幼稚園、小学校を毎月2回ずつ、警察官OBが巡回訪問を行った。</p> <p>(2) 毎月22日の「子ども安全の日」 各小学校で、防犯ブザーの点検、防犯教室等の取組を実施した。</p> <p>(3) 「8・3運動」の推進 市民へのカバン札等の配布を行った。</p> <p>(4) 安全意識啓発マップづくり 児童の危険予測能力を高め、安全な行動ができるようにするため、全小学校でマップづくりを実施した。</p> <p>(5) 防犯ブザーの所持・携帯の推進 広島市立学校に入学する新1年生児童全員に、防犯ブザーを支給した。</p> <p><b>○「こども110番の家」事業</b></p> <p>市民総ぐるみで子どもたちの安全を確保し、より良好な地域環境をつくるため、「こども110番の家」を設置し、地域全体で温かく子どもたちを守る運動を進めている。</p> <p>[登録件数]</p> <table border="1" data-bbox="587 1133 1437 1229"> <thead> <tr> <th>22年度末</th> <th>23年度末</th> <th>24年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,066件</td> <td>13,182件</td> <td>13,253件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「こども110番の家」 子どもが危険にさらされ、助けを求めてきたときに緊急避難場所として一時保護し、警察や学校等へ連絡する民家及び店舗等のことで、地区青少年健全育成連絡協議会が中心となって、地域に協力を呼びかけている。</p> <p><b>○「減らそう犯罪」推進事業</b></p> <p>(1) 各区において地域団体や警察等との推進体制の強化、防犯講習会の開催などに取り組んでいる。過去3年度の主な取組は、次のとおり。</p> <p>ア 毎年度、各警察署等との共催による「減らそう犯罪」区民大会の開催や区民まつり等のイベントでの子ども防犯クイズの実施</p> <p>イ 毎年度、全公民館(70館)において防犯講習会を開催</p> <p>ウ 区役所1階ロビー等へ県警本部発行の犯罪・防犯情報の掲示</p> <p>(2) 平成23年度から3カ年計画で広島市内の全市立中学校を対象とした犯罪被害防止教室を実施している。</p> <p>23年度 19校実施 24年度 23校実施 (平成25年度は26校で実施予定)</p>	22年度末	23年度末	24年度末	13,066件	13,182件	13,253件
22年度末	23年度末	24年度末					
13,066件	13,182件	13,253件					

A 結果 是頁	B 進捗状況
<p>広島市における刑法犯認知件数は、年々減少しているものの、平成20年(2008年)は13,983件で、広島県内全体の約半数を占めている。そのうち6割弱は、身近な犯罪と呼ばれる乗り物盗(自転車盗など)、街頭犯罪(路上強盗、ひったくり、恐喝、車上ねらい、自動販売機ねらいなど)、侵入強・窃盗などとなっている。また、各地で、子どもが不審者から声をかけられたり、あとをつけられたりするなどの事件が多く発生しており、登下校中等の子どもの安全確保が重要な課題となっている。このため、防犯意識の高揚、地域の自主的な防犯活動の支援など市民が安心して暮らせる犯罪の起こりにくい安全なまちづくりを推進する必要がある。</p>	<p>(3) その他の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 地域の自主防犯パトロール隊への資機材の提供</li> <li>イ 自転車盗難対策、ひったくり対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>22年度 盗難防止用のワイヤー錠やひったくり防止ネットの配布</li> <li>23年度 啓発用ポスターの作成し、市内駐輪場等に掲示</li> </ul> </li> <li>ウ 県警本部からの情報提供を基に、子どもと女性に対する不審者情報、犯罪情報を防災情報メール登録者に対して、情報発信を行った。</li> </ul> <p>○子どもの見守り活動10万人構想 平成23年度 89,600人 → 平成24年度 92,000人</p> <p>○防犯組合連合会事業(地域安全活動事業)の促進 市内の各防犯組合連合会(7団体)が行う、防犯パトロール活動、広報啓発活動、防犯キャンペーンなどの各種事業に対して、補助を行うとともに、十分な連携を図り、活動の充実を図った。</p>



A 結果 項目	B 進捗状況
<p>広島市における平成 20 年 (2008 年) の交通事故件数 (人身事故) は、7,572 件、死傷者は 9,218 人であり、そのうち子どもが約 1 割を占めている。</p>	<p>○安心・安全な通学路の整備事業  学校や区役所が中心となって実施した安全点検に基づき、歩道整備などの安全対策に取り組んでいる。</p> <p>〔安心・安全な通学路の整備に係る事業費〕</p> <p>H22 年度決算 37,831 千円  H23 年度決算 51,598 千円  H24 年度決算 54,881 千円</p>

基本目標 Ⅲ 豊かな教育環境をつくります

重点施策 5 安全・安心なまちづくり

主な施策展開 ②交通安全意識の高揚

A 課 見直し	B 進捗状況																																																																																			
<p>広島市における平成20年(2008年)の交通事故件数(人身事故)は、7,572件、死傷者は9,218人であり、その内子どもが約1割を占めている。</p>	<p><b>○学校等での交通安全教育の推進</b> 交通事故から身を守る意識を高めるため、関係機関や団体等との協力・連携により、交通安全教育(歩行者のマナーや正しい自転車の乗り方等)を推進する。 〔交通安全教室開催実績〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">回数・人員等 対象</th> <th colspan="2">22年度</th> <th colspan="2">23年度</th> <th colspan="2">24年度</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>人数</th> <th>回数</th> <th>人数</th> <th>回数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼・保育園</td> <td></td> <td>111</td> <td>8,429</td> <td>120</td> <td>9,417</td> <td>122</td> <td>9,439</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>自転車</td> <td>116</td> <td>9,879</td> <td>117</td> <td>9,723</td> <td>116</td> <td>9,205</td> </tr> <tr> <td>歩行</td> <td>118</td> <td>9,509</td> <td>120</td> <td>9,244</td> <td>121</td> <td>9,125</td> </tr> <tr> <td>中・高等学校</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1,100</td> <td>1</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>P・T・A</td> <td></td> <td>3</td> <td>145</td> <td>2</td> <td>86</td> <td>3</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>専門学校等</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>新入学前児</td> <td></td> <td>153</td> <td>6,313</td> <td>142</td> <td>5,983</td> <td>148</td> <td>6,038</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td>501</td> <td>34,275</td> <td>502</td> <td>35,553</td> <td>512</td> <td>34,015</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○中・高校生に対する交通安全副読本の作成</b> 中学校1年生及び高校1年生を対象とした交通安全副読本を作成し、市内の全中・高等学校の新入生に配付する。 〔配布実績〕 22年度 25,260冊 23年度 25,252冊 24年度 25,380冊</p> <p><b>○チャイルドシート普及啓発事業</b> 交通事故から乳幼児の生命を守るためチャイルドシートの正しい取り付け方の講習を行う。 〔参加人数〕 22年度 121人 23年度 125人 24年度 113人</p> <p><b>○幼児2人同乗用自転車の安全利用の促進</b> 広島県道路交通法施行細則が改正され、平成21年(2009年)7月から幼児2人同乗用自転車に限って、6歳未満の幼児を2人同乗させることが認められたため、安全利用講習会を行う。 〔開催実績〕 22年度 4回 23年度 7回 24年度 5回</p>							回数・人員等 対象		22年度		23年度		24年度		回数	人数	回数	人数	回数	人数	幼・保育園		111	8,429	120	9,417	122	9,439	小学校	自転車	116	9,879	117	9,723	116	9,205	歩行	118	9,509	120	9,244	121	9,125	中・高等学校		0	0	1	1,100	1	62	P・T・A		3	145	2	86	3	123	専門学校等		0	0	0	0	1	23	新入学前児		153	6,313	142	5,983	148	6,038	小計		501	34,275	502	35,553	512	34,015
回数・人員等 対象		22年度		23年度		24年度																																																																														
		回数	人数	回数	人数	回数	人数																																																																													
幼・保育園		111	8,429	120	9,417	122	9,439																																																																													
小学校	自転車	116	9,879	117	9,723	116	9,205																																																																													
	歩行	118	9,509	120	9,244	121	9,125																																																																													
中・高等学校		0	0	1	1,100	1	62																																																																													
P・T・A		3	145	2	86	3	123																																																																													
専門学校等		0	0	0	0	1	23																																																																													
新入学前児		153	6,313	142	5,983	148	6,038																																																																													
小計		501	34,275	502	35,553	512	34,015																																																																													

A 課 題	B 進捗状況
<p>〔 広島市における平成20年(2008年)の交通事故件数(人身事故)は、7,572件、死傷者は9,218人であり、その内子どもが約1割を占めている。 〕</p>	<p>○学校等における交通安全教育の充実</p> <p>(1) 各交通安全運動期間の周知に係る通知や、交通安全に関するコンクール等の通知、作品集の送付等を行い、交通安全意識の高揚を図った。</p> <p>(2) 各学校の児童生徒の実態に応じて、『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』等を活用し、交通安全指導を行った。</p> <p>(3) 各小学校において年間計画に基づき、交通安全教室(歩行・自転車)を開催した。</p>